

<川越市>

## 川越市長・川合よしあき「ブログの品位」を疑う！

### 川合市長の自爆行為の連発！

川合善明氏は東京弁護士会の副会長を務めたほどの弁護士であり、現在は公人たる川越市長の地位にあり、インターネット上に市長として「川合よしあきブログ」を公表している。この存在を知らない川越市職員はいない。

しかし、その内容を読んで「勉強になった」「流石、市長。いいことを書いているなあ」と感激している職員はいない。なぜなら、川合市長のブログは、以前から公人たる市長の言動とは思えない独善的で、自分が気に入らない者は一般市民であろうと名指しで非難するというものだからだ。

弁護士としての知識と市長としての品位が備わっていれば、書けないことばかりだが、川合市長の書きぶりからすると、本人はどうやらブログの内容が誇らしい正論と信じている様子さえうかがえる。現代俗語でいえば「イタすぎる」のである。

### 訴訟妨害行為を告白？

しかし、川合市長のブログは「イタイ」では済まされない、異常な内容になっている。これこそ、川越市の恥ではないか。

3月17日と18日の連日で更新された「川合よしあきブログ」を紹介しよう。

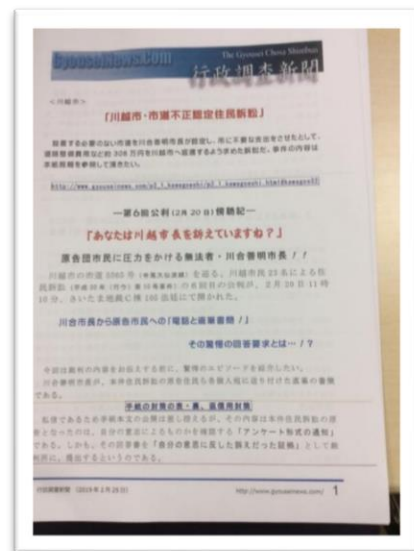
昨年、戸松廣治氏他22人の川越市民から「川越市長 川合善明」を被告とする住民訴訟が提起されました。

投稿日：2019年3月17日 最終更新日時：2019年3月17日 カテゴリー：[川合よしあき日記](#)

昨年、戸松廣治氏他22人の川越市民から「川越市長 川合善明」を被告とする住民訴訟が提起されました。内容は、平成23年に行った市道認定処分が、ある特定の人への依頼によりその人の土地の便宜のために川合市長が行った不正・不法な市道認定だから、行政庁である「川越市長 川合善明」は、道路工事費用300万円あまりを損害として川合個人に請求せよ、というものです。この訴訟は、渋谷実前県議会議員が自分の元秘書や地元古谷地区の支援者等にやらせたものであろうと、当初から推測していました。今年の2月に原告の一人と直接話す機会があり「あなたは、川越市長を訴えていますね」と聞いたところ、訴訟を提起していることを知りませんでした。

「誰かに委任状を渡したことはありませんか。」と確認したら、1 年位前に渋谷実前県議会議員から「これに名前と印をくれ」と言われて応じた記憶があるとのこと、その人は直ぐに訴訟取り下げてくれました。

同様の人が他にも居るだろうと思い、私からアンケート様式のがみをだしました。2 月 20 日、その住民訴訟の口頭弁論期日に渋谷実前県議会議員が傍聴に来ていたので、わざと傍聴席の渋谷氏の隣の席に座ったら、「手紙は全部俺が回収した。」とのこと、そしてこの写真の行政調査新聞です。語るに落ちる、です。この顛末は、裁判所に書面でしっかり伝えました。



<http://yoshikawagoe.com/?p=1206> ←川合よしあきブログ（2019年3月17日）

まず、指摘しておくが同ブログ文中の『**今年の2月に原告の一人と直接話す機会があり「あなたは、川越市長を訴えていますね」と聞いた**』という記述は、かなり意図的に不正確に書いている。

事実は本紙既報の通り、当初は元原告の市民の自宅に川合氏が突然、電話をかけて来て、「**あなたは川越市長を訴えていますね？**」と問い質したのだ。

狙い撃ちであり、偶然街中で出会って立ち話をしたというような状況ではない。

こんな電話が市長から突然来たら、一般市民は誰でも驚く。相手が市長であろうが「**何でこんな電話を掛けて来るんだ**」と怒ることができる市民でなければ、仮にも市長自身が電話をかけてきた意図を察して「**市長に合わせなければ何か良くないことが起きるかもしれない**」と不安になる。

この元原告市民は、市から補助金を受けている団体の役員なのである。

代理人弁護士がついている事件の裁判中、相手方当事者に直接連絡するようなことをすれば、弁護士倫理違反として大問題になる。

意図しなくても、相手方当事者を怯えさせたり、法廷で真実を証言しづらくさせたりすることになり兼ねないからだ。専門家によれば、このような行為は弁護士会の懲戒処分を受ける可能性も高いという。川合市長は、代理人弁護士という立場ではないが弁護士だ。弁護士というだけでも一般市民は驚くのに、さらに市長ということになれば尚更、一般市民は委縮する。

川合氏のブログには、元原告市民は『**渋谷実前県議会議員から「これに名前と印をくれ」と言われて応じた**』とある。渋谷元県議が元原告市民に白紙委任状を示して署名押印を求めたように読めるが、勿論…そんな事実はない。川合市長も弁護士で自治体の長なら、こんなことがあり得ないことを百も承知のはずだ。

住民訴訟の原告になるには、その前に自治体に対して住民監査請求をして監査結

果が納得できないときに、住民訴訟を起こすという手続の流れになっている。

元原告市民が原告になっているのは、住民監査請求をしたからだ。

住民監査請求書（措置請求書）の書式は、監査請求する内容が書いてあるすぐ下に住所・氏名を書くようになっている。だから監査請求した人…その後、原告になった人…が監査請求の内容を知らないということはある得ない。

元原告市民が川合市長に『**渋谷実前県議会議員から「これに名前と印をくれ」と言われて応じた**』と言ったとしても、それは前述の通り、この元原告市民が市から補助金を受けている団体の役員であることから、川合市長に恨まれて今後、補助金の交付を中止されたり減額されたりすると困るという心配から、とっさに言ったことではないのか。

川合市長は、「**一般市民は監査請求や住民訴訟の手続を知らないだろう**」と高を括って、意図的に騙す文章で、渋谷実前県議を名指しで攻撃する口実にしたのだ。

川合市長の暴走は、これだけでは止まらない。

同ブログにはもっと重大な問題が告白されている。

### **「同様の人が他にも居るだろうと思い、私からアンケート様式のとがみをだしました。」**

「とがみ」がひらがな表記と「だしました」との誤記も合わせて、非常に不安定な精神状態の人間が書いたような文章にさえ思えるが、重大な点はここではない。

弁護士であり市長でもある川合市長が、事実上の訴訟妨害を市長のブログで堂々と告白していることだ。川合市長は、元原告市民ひとりに電話しただけでなく、全原告に直接、問い合わせたのだ。

川合市長は自分からの通知に、原告全員が震えあがって原告を降りることを期待したのだろう。こんな訴訟妨害を、弁護士で現職の市長が行うとは呆れ果てる。

『**2月20日、その住民訴訟の口頭弁論期日に渋谷実前県議会議員が傍聴に来ていたので、わざと傍聴席の渋谷氏の隣の席に座ったら、「手紙は全部俺が回収した。」とのこと**』の一節は、渋谷前県議を非難したつもりなのだろうが、空振りもいいところだ。

渋谷前県議が**「手紙は全部俺が回収した。」**という事実はない。

川合市長への当てつけとして嫌みを言ったに過ぎず、実際は原告同士で、「**川合市長から変な手紙が来た**」「**市長は何を考えているんだ**」と話題になり、返事をしないことにしただけのことだったのである。

川合市長には、とんでもないことをしているという自覚が全くない。正義の告発だと思い込んでいるかのようでさえある。驚くべきことに**「この顛末は、裁判所に書面でしっかり伝えました。」**と、自らの訴訟妨害行為を裁判所に報告したのだ。

**「語るに落ちる、です。」**との得意気な一語に満悦している川合市長の様が目に浮かぶようだが、語るに落ちることをしているのが自分自身だということが理解できていない。

## 国民を呼び捨てる公職者

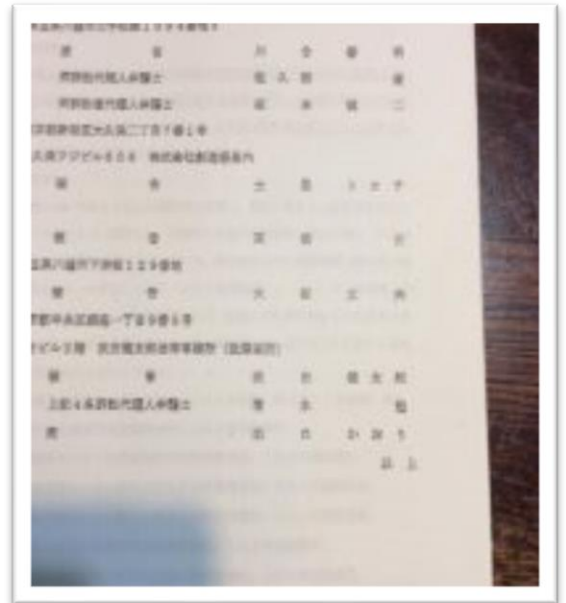
さらに翌3月18日の「川合よしあきブログ」でも不法行為が堂々と展開されている。

先週言い渡された損害賠償請求訴訟の判決当事者目録です。

投稿日：2019年3月18日 最終更新日時：2019年3月19日 カテゴリー：[川合よしあき日記](#)

先週言い渡された損害賠償請求訴訟の判決当事者目録です。被告の土屋トカチ、高橋玄は新井喜一前市議のセクハラ・パワハラは濡衣だ、と言う主張の映像を製作しユーチューブにアップしている人たちです。新井喜一前市議のセクハラ・パワハラは反川合勢力の中心人物である新井喜一前市議を陥れる陰謀だ、という趣旨の主張を繰返している行政調査新聞と土屋・高橋の組合せ。そして、先月の新井前市議が逆提訴した記者会見の席にいた渋谷実前県議会議員。

新井前市議は、2年前の市長選挙の際、私をしっかり支持して手伝ってくれた議員さんです。何も無ければ、来たるべき統一地方選挙では、私は新井前市議を一番応援しなければならぬのに、新井前市議が上記のような人たちに助けを求め、かつ女性職員を逆に提訴した事は、言葉で言い表せないくらい残念な事です。



<http://yoshikawagoe.com/?p=1210> ←川合よしあきブログ（2019年3月18日）

前日は渋谷前県議、今日は新井前市議。川合市長は元議員を名指しで非難するのが癖になっているようだ。こんなことをする市長は、全国広しといえども川合川越市長だけだろう。

以前も川合市長は同ブログで、川越市民である本紙社主を「松本」と呼び捨てて表記し、それを中止しないまま今度は世界的映画監督2人を捕まえて「土屋トカチ」「高橋玄」と呼び捨てて批判である。

現在、川越市ハラスメント疑惑の告発動画『K』を発信中の土屋トカチ氏も高橋玄氏も国際映画祭受賞歴を持つ国際的にも知名度のある映画人だ。

現職市長がブログで、呼び捨てで非難するとは非常識極まりない。

しかも川合市長は、名指しで呼び捨て非難された当人から抗議を受けても中止しない。同市長ブログで呼び捨てにされた高橋玄監督に話を聞いたところ、高橋氏は川合市長のあまりの無礼さに、すぐに川越市役所に電話をかけたという。

高橋氏：

僕らが文化人であるとか偉いという話じゃありません。まず、一審裁判はもう終わっている  
ので、僕たちは「被告」ではありません。それを川合市長は、まるで犯罪者を晒し首にするか  
のように、判決文で個人の住所が書かれた箇所を写真撮影して公表しています。

「俺に逆らう奴は晒し者にしてやる」と言わんばかりです。

これでよくも「セクハラ被害女性を二次被害から守る」などと言えるものです。

市役所に電話すると秘書課の女性につなかりました。

「市長をお願いします」と言うと、「申し訳ありませんが面会中のため出られません」とのこと  
なので、その秘書に伝言を告げました。呼び捨てにされる筋合いはないこと、「被告」ではな  
いこと、個人情報を公開していることに嚴重に抗議します、と。

でも、川合市長は中止していません。僕は川越市議会にも言いたいですね。

あれは川合個人のブログじゃなくて「市長ブログ」なのだから、川越市の品格に関わる問題  
です。議会が川合市長に対して警告の決議をあげるべきです。言いたい放題のブログを放  
置するような、川合市長の言いなり市議会なら川越市にとって無価値ですよ。

確かに正常な行政であれば、「市長ブログ」であっても誰かが市長に進言し、謝罪  
がないとしても、すぐさま問題箇所を修正するといった危機管理能力がある。

だが川越市は違う。川合市長に進言する職員は誰もいない。

そして、その状況を川合市長自身が「自分の権力に誰もさからえないからだ」と  
信じているのである。公務員は上部の意思決定に従う職業上の義務がある。だから  
汚れ仕事も、黙ってやらなければならない。

ただそれだけの話であって、誰も川合市長を支えようなどと思って仕事をしてい  
るわけではない。それは川越市職員と親しくなれば、誰にでもわかることだ。

## 先輩政治家、恩人をも裏切る利権主義者の正体！

前掲の市長ブログで、さらに重大な意味を持つ川合氏の一文がある。

**「何も無ければ、来たるべき統一地方選挙では、私は新井前市議を一番応援しな  
なければならないのに」** 実に意味深な物言いだ。

実は、川合市長と新井前市議はもともと極めて親しい関係にあったのだ。新井前  
市議は、川合市長の父親・川合喜一氏（奇しくも新井前市議と同名）が川越市長だった  
ころ、既に川越市議になっており市長を支えていた。

その息子である川合善明氏が川越市長になったときも、「息子を一人前に、してやっ  
てくれ」と頼まれたことから、新井氏は川合市長を支えていたのである。

それが3期目に入って川合市長の横柄さが目に付くようになり、注意するようにな  
った。誰も川合市長に注意できない状況で、新井前市議だけが川合市長を注意で  
きる存在だった。ところが川合市長は、新井前市議の思いやりに基づく注意が気にな  
くわなかった。一気に敵対的な態度をとるようになった。新井前市議は驚いたが、  
川越市のためにも、川合市長のためにも引き下がるわけには行かなかった。

新井前市議は川合市長から常に敵対視されるようになった。

**「何も無ければ、来たるべき統一地方選挙では、私は新井前市議を一番応援しなければならぬのに」と川合市長が公言するのは、過去に深い関わりがあったからなのだ。**

「何も無ければ…新井前市議が川合市長に注意するようなことをしないで、全面的に服従すれば、選挙で一番応援してやるのに…」と公言しているのだ。

川合市長には進言する人間が誰もいない。

過去に川合市長の側近だった元職員は、川合市長の素行について進言したところ、翌日、メール1通で解任された。つまり川合善明という人物は「どんなことであれ、自分に意見する者は全て敵であり、その敵の賛同者も敵という極めて分かり易い」が、極めて恐ろしい思考の持ち主なのだ。だから、自分のご機嫌を取ってくれる人間を最も好むのである。小野澤康弘議長を筆頭に川越市議会の議員の多くも、今そうなってしまうのではないか？

川合市長は同ブログで、新井前市議について**「新井前市議は、2年前の市長選挙の際、私をしっかりと支持して手伝ってくれた議員さんです。」**と書いている。

これには上記のような事情がある。新井前市議が川合市長の大恩人だということを知らない市民が読めば、「**新井さんってのは、市長を手伝っていたのに敵に回ったのか。そういう人だからハラスメントやるんだらうな**」などと、事実と真逆の印象を抱くだろう。

どうせ一般市民は、新井前市議と父親（川合喜一元市長）の親密な関係も知らなければ、川合喜一元市長が新井前市議に川合善明市長を一人前にするよう頼んだことも知らないと、川合善明市長は高を括って真逆のことを平然と言っているのである。

いまの川越市議会（小野澤議長）は、川合市長の言いなり状態に陥っている。

新井前市議のハラスメントの疑いについて議会独自の調査をしようとしなくて、川合市長が川越市の委員会などの委員に選んでいた弁護士や学者を「**第三者委員会**」の委員に選んで、手続きが不透明な「**調査**」を行わせ、新井前市議のハラスメントをほとんど認定できなかった調査結果報告書を公表せず、議員だけを対象にして川合市長など市の幹部を対象から外した「**川越市議会ハラスメント根絶条例**」を提案したのは小野澤議長である。この条例は、「ハラスメント」の定義をせず、「ハラスメント」の認定を「**第三者**」に委ね、「**認定**」された議員の実名を公表するという、無責任極まりない条例だ。

マスコミが批判的な報道をしないどころか、むしろ応援するような報道しかしないことをいいことに、川合市長の暴走はますます酷くなっている。現在の川越市議会が川合市長の暴走を止めることができないとき、いったい誰が川合市長の暴走を止めるのか。

最低限、川合市長の暴走に加担する議員には川越市議会から撤退してもらわなければならない。

それこそが、当面、川越市政をいくらかでもまともな方向へ向かわせる「**ただ1つの路**」だ。■